報告５　デンマーク

フリースクールとグルントヴィ

フェノーサン・フリースクールを訪問する。

精神病博物館のある精神病院跡地に隣接している。若い校長・エディの目もキラキラしていれば、樹や土と遊ぶ子どもたちも、からだいっぱいキラキラしている。

この「フリースクール」、日本とはまったく違うデンマーク独特の制度だ。フリースクール法があり、初年度最低 12 人の生徒と教師１人がいれば、親たちは自分たちで学校を作ることができる。開校２年目は 28 名の生徒がいれば、国から補助金もでる。

「全国には 500 のフリースクールがあり、９万人が学んでいます」と校長。計算するとデンマークの学校で学ぶ子どもの 13 %になる（すごい！）。

18 歳以上の成人を対象にした国民高等学校（フォルケホイスコーレ）もフリースクール法の中で設立され、維持されているそうだ。

そういえば学校の広間に、デンマーク国民高等学校運動をすすめたグルントヴィの肖像画があった。

「ここでは協力し合いながら勉強する。その協力の中で自分の役割を学んでいく」とエディ校長が言っていた。

＊

グルントヴィは、フォルケホイスコーレ（国民高等学校）の思想と原理の提唱者だ。詩人で牧師、歴史学者、神学者でもあり、偉大な思想家、デンマーク国民精神の改革者だ。デンマークの精神的牧師、国民の父と仰がれている。1783 年９月８日生で 1872 年没というから、日本では江戸時代、寺子屋の頃だ。

彼は、1830 年ころのイギリスで、新しい社会発展における「自由」に感銘を受け、「精神の自由」が教育にとって最大で唯一の条件であると確信した。そして、農民青年たちの国民高等学校での学びを土台として、その後のデンマーク社会をリードする農業協同組合運動に発展する。

「だれしもが、人間と社会の状態に関して明らかな眼（明晰な識別力）をもち、また他のひとびとと仲間であるという喜ばしい連帯感をもって、自分の職業を一層好きになってそこに戻っていくことができる」。

彼の言葉だ。　　（薗部英夫）